

日時

平成27年

11月13日[金]

14:45-16:15

会場

慶應義塾大学
三田キャンパス
東館8Fホール

予約不要・参加無料・聴講自由



関連催事

センチュリー文化財団寄託品展覧会
元和偃武四〇〇年
太平の美

—書物に見る江戸前期の文化—
入場無料

会期

11月4日[水]-11月27日[金]

第一会場

慶應義塾図書館展示室

開館:平日9:00-18:20 土曜9:00-16:50

休館日:日曜・祝日・11月20日21日

第二会場

慶應義塾大学アート・スペース

開館:平日10:00-17:00

休館日:土曜・日曜・祝日・11月20日

主催

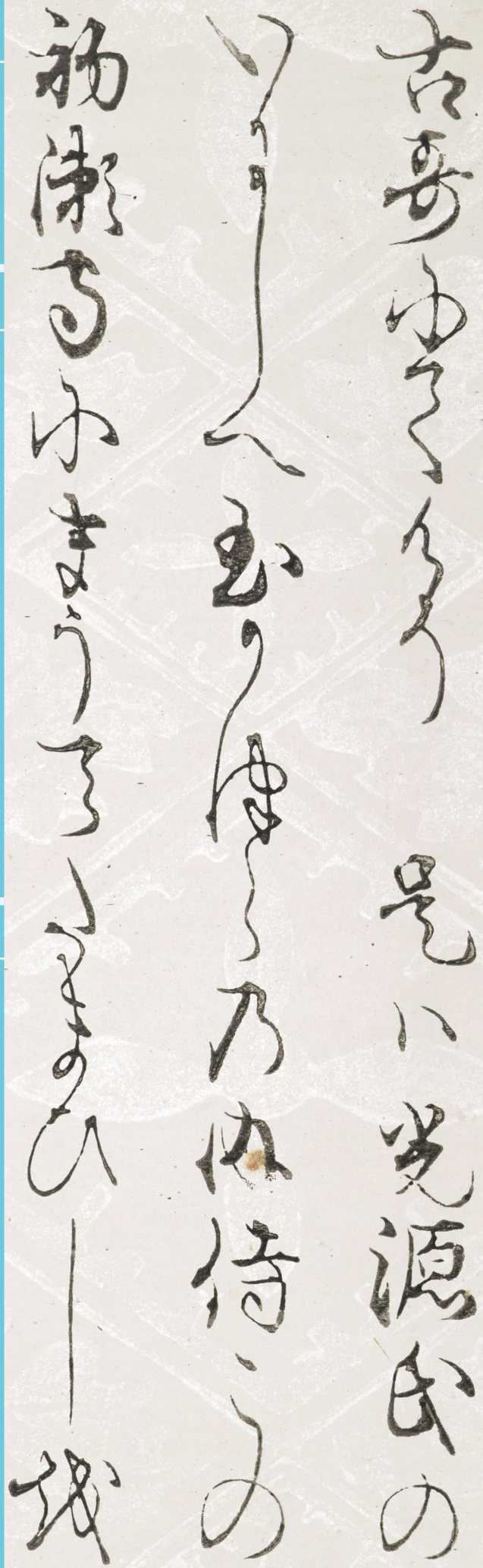
慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

慶應義塾大学アート・スペース

慶應義塾図書館

協力

野上記念法政大学能楽研究所



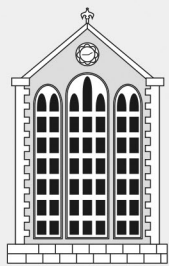
第28回
斯道文庫
講演会

古活字版のタイポグラフィ

—活字・組版・異版—

講師・鈴木広光氏
奈良女子大学大学院教授

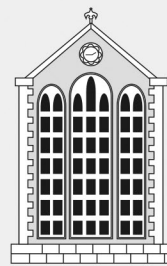
慶應義塾大学附属研究所 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
斯道文庫 慶應義塾大学三田キャンパス旧図書館4F
KEIO Institute of Oriental Classics TEL:03-5427-1582|www.sido.keio.ac.jp



第28回 斯道文庫講演会

古活字版のタイポグラフィ

— 活字・組版・異版 —



講師 奈良女子大学大学院教授
鈴木 広光氏

日時 平成27年11月13日(金)
14時45分-16時15分

会場 慶應義塾大学三田キャンパス
東館 8F ホール
予約不要・参加無料・聴講自由

古活字版とは **東文叢刊**

江戸時代以前の日本の書物には、写本と印刷本があり、印刷本には木版本と活字本があります。活字本は一字版とも呼ばれ、1字または少数の文字を刻んだ、統一規格の部品を組み合わせ、本文の印刷を行ったものです。このうち、近世の初期に行われた活字本を、古活字版と呼んでいます。

活字本は、東洋では宋代(960-1279)以降に中国周辺で用いられ、西夏や高麗の活字と、活字本が遺されています。また高麗を継いだ朝鮮王朝は金属活字の製作に熱心で、多くの活字本を刊行しました。

日本では、文禄慶長の役(1592, 97)後に朝鮮王朝の技術を導入し、古活字版の刊行が始まりました。技術の上では、15世紀発明の西洋の活字印刷術を用いた、キリタン版の影響を受けたとも言われています。

活字印刷は、仏典や漢籍に加え、それまでほとんど印刷されることのなかった、日本語仮名書きの図書を印刷して、出版文化に大きな転機をもたらしました。特に、日本の古典文学を扱った「嵯峨本」は、古活字版を代表する作品として知られています。

講師紹介

鈴木広光 1964年生まれ。南山大学文学部卒業、名古屋大学大学院博士課程中退。名古屋大学助手・九州大学文学部専任講師などを経て現在奈良女子大学研究院人文科学系教授。専門は国語学、特に日本語の書記様式と印刷との相関関係に関する歴史的研究を行う。代表的な著書に『日本語活字印刷史』(名古屋大学出版会、2015)がある。

📷 図版: 光悦謡本「玉かつら」1帖

「光悦謡本」は、慶長期(1596-1615)に京嵯峨の地で豪商角倉素庵が主に木製活字を用いて刊行させたと考えられる、「嵯峨本」を代表する存在の一つです。観世流謡曲百番をセットにしたもので、本阿弥光悦風の流麗な活字書体から「光悦謡本」と通称されます。使用する料紙と仕立て方の違いで、綴葉装の特製本・上製本と、袋綴の並製本の3種に大別されています。図版に使用した『源氏物語』ゆかりの曲「玉かつら」は、表紙や料紙に、胡粉を厚塗りした上に雲母の粉で模様を刷り出した、高級な和製唐紙を使用した豪華な特製本で、とても活字本には見えません。

